

会津ネット通信



◆2006. 10. 25(水) 発行

号外

発行「トゲチヨ会津ネットワーク」事務局

国土交通省阿賀川河川事務所工務課

NPO法人会津阿賀川流域ネットワーク

〒965-0830

会津若松市西年貢1丁目7番45号

本号4ページ

イトヨより皆様へ先ずご挨拶…1

イトヨを学ぶ会開催の様子……2

学ぶ会で何が話されたか……3

イトヨを学ぶ会の報道……4

流域学講座第1回 ～イトヨの名と形～

先ず御挨拶



この度、私の生存に関しまして突然に多くの議論やら会合などを持たれ、さらに会などもつくられて、種々の行動をも予定されるとか…
急な動きに驚くやら恥ずかしいやら、頼もしいやらと頭の中で春夏秋冬が一日でまわっているようでございます。

皆様方のこのような力強い御決心に、一言御挨拶を申しあげなければ、と思い発します。

かつて私たちトゲウオは巣をつくる魚といわれては注目を浴び、オスが子育てをする行為に婦女子から「いい旦那・理想的」とも言われ、私たちの行動を研究したオランダ国のティンバーゲンがノーベル賞を授与したりと、その時々脚光を浴びたものでした。

もともと海と陸(川)を行き来していた私たちが、ある時から陸(川)にのみ留まるようになり、川の湧き水に生活をする私たちを見て、氷河期の生き残りとして称えられたりもしましたが、一部の方々からは、モソモソしているから海まで行けなくなったとか、ここ(川)で生きる術を身につけたズルイやつとか、根性がないなどとも言われました。

陽も陰も体験した私たちですが、この頃自分の周りにはとても仲間が少なくなり、とても寂しい思いをしています。寂しいところか、不気味な感じさえもしています。

私たちはどうなってしまうのでしょうか…

私たちだけでなく、周りに泳いでいた多くの仲間たちもめっきり少なくなりました。

私たちは為す術もなく泳ぐだけです。どうか、私たちを助けて下さい。

かつてあなた方は、“魚は地より湧く”とまで話されました。

いっぱい魚で溢れる川環境をつくって下さい。

私たちはもとより何もしていません。何かしたのは皆さんです。

御挨拶が少し感情的になりましたが、どうか会が皆様方と私どもにとってよりよい会でありますことを祈念いたしまして、御挨拶いたします。



トゲチヨ

イトヨを学ぶ会開催される

平成18年9月26日、イトヨを学ぶ会がウエルサンピア会津にて開催されました。

主催者の国土交通省阿賀川河川事務所の矢田所長の挨拶に続き、参加者の挨拶がありました。早速会議に入り、同事務所より陸封型イトヨの生息地の現状、会津地域におけるイトヨ生息地の紹介がパワーポイントにより説明されました。天然記念物指定地を含めて、全体的に個体数の減少化傾向にあるとの紹介もありました。

また、阿賀川におけるイトヨの泳ぐ様子なども、動画で紹介されました。



● 個体数減少が見られる会津坂下町
青木天然記念物指定地



● 湧き水箇所に群れるイトヨ

今、何故イトヨなのか・・・



その答え

かつて会津ではイトヨは極普通にどこにでも見られた魚でした。私たちが全ての生きものの水なしでは生きられません。

今なぜイトヨなのか？

**イトヨが生息できる水環境の
保全は健全な水環境保全へつながる**
からに他なりません。

だから今イトヨなのです。



● 9月26日の勉強会の様子



● イトヨを守れ!!

※当日参加された行政・団体・個人名※

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| ◆ 会津地方振興局 | ◆ 阿賀川・川の達人の会 | ◆ 阿賀川河川事務所 |
| ◆ 会津若松建設事務所 | ◆ 喜多方市高郷町 | ◆ 特定非営利活動法人 |
| ◆ 会津若松市 | 自然を守る会 | 会津阿賀川流域ネットワーク |
| ◆ 南会津町 | ◆ 南会津町川島地区 | ◆ 樋 幸四郎さん |
| ◆ 会津坂下町 | | ◆ 成田 宏一さん |
| ◆ 湯川村 | | |

—9月26日、学ぶ会での 発言の一部を紹介します。—

— 会津の水文化・水環境を流域で考えていく必要がある。
流域の結集にはイトヨというシンボルが要る。—

(阿賀川河川事務所長)

— イトヨは個体数も生息域も減少している、
継続的な努力による保全を期待する。—

(NPO法人阿賀川流域ネットワーク)

— 只見川にいるイトヨの保全に努めている。
権利者との話し合いは、小さな団体なので苦労した。—
(喜多方市高郷町自然を守る会)

— イトヨはどこにでもいると思っている人が多いが、
減少だという意識の変化も出ている。

総合学習などで理解を進めている。—

(南会津町川島地区)



●生物保全の啓発を呼びかける
(南会津町川島地区)



総合学習

●水に触れ、生きものに触れ
川環境を楽しむ子どもたち

・データを撮り続けること、データーを
持ち寄ることがとても大切。

・湧き水の減少という問題を考えないとイトヨ
の保全は難しいのでは...

イトヨの個体数が減少している。

適切な指導を望みたい。

本種は町の文化財、大切にしたい。

(会津坂下町)

良好な水環境の保全と振興助成をしている。
期待したい。(県振興局)

子どもたちといっしょに川に入って活動をしている。

イトヨに限るのではなく、イトヨが生息をする、

トータルの環境保全が必要だと思う。

(阿賀川・川の達人の会)

続いても意見！！

● 川の水質が悪化している。

● 触れて感動させる、この感覚が保全につながる。

● 総合学習は生きものの名前を覚えることではな
い。関わりを見つけるためにある。

● 総合学習にイトヨを取り上げられたことがある。
とてもうれしかった。

● 知らない間にイトヨが居なくなったということは
とても良くない。

● 本会は住民主体で運営するのが望ましい。

● 只見川も阿賀川流域と考えてよろしいか。

次回への意見

次回の会合は10月25日に。

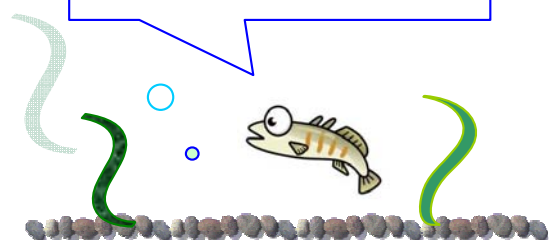
会議と現地観察会を！！

現地観察地、南会津町川島地区に決定！！

正式会名は？

トゲチヨ・トゲッチョ・トゲオ・イトヨ

。 次回は設立総会です。





あかかわ

流域学講座

第1回

イトヨの名と形

イトヨ属は北半球の海に面したところに棲む、しかしその南限は北緯35度以北に限られる。日本においては、遡河型(降海型と同じ)で山口県(日本海側)利根川(太平洋側)となる。淡水型(陸封型と同じ)は、福井県大野市を南限に、北海道まで広がる。しかし、その多くは海に近いところの淡水に棲む海よりおよそ100kmも離れたところに生息を続ける淡水型のイトヨは、ここ会津と栃木県那須・大田原ぐらいのものである。(レッドリスト記載は陸封型のみ)

イトヨは学名を *Gasterosteus aculeatus* という。

Gasterosteus とは腹に骨がある、*aculeatus* とはトゲがあるという意味である。

そのものズバリの名をもつ魚である。

淡水型は今ではとても貴重で食することは出来ないが、遡河型はスーパーで春季に売られているときもある。20数尾1パックで300円くらいである。手に入ったなら良く見て欲しい。

成魚で背中の中ほどのトゲのテッペンよりうすい皮(棘皮)が下方、背中にのびていけば陸封型、トゲの途中より棘皮が下方、背中にのびていけば降海型。きっとあなたが食するのは降海型。

そして一気に食べないで注意深く身をほぐし、骨を見てみましょう。そして学名の意味を感じましょう。腹に骨があるとはどういう意味なのでしょう。

冬が過ぎ海に上るイトヨを春告魚とまで言った風物詩。

今は遡上するイトヨの激変で、その言葉さえ消えかかっている。

そこで一句

“いつまでも いるとおもうな イトヨと恋人”
(坂下 諭)